

創薬支援推進事業
創薬シーズ実用化支援基盤整備事業 中間評価報告書

研究開発課題名	イノベーションエンジンユニット
代表機関名	アクセリードドラッグディスカバリーパートナーズ株式会社
研究開発代表者名	池浦 義典
全研究開発機関	平成 29 年度～令和 3 年度（予定）

1. 研究開発概要

アカデミアの保有するシーズやコンセプトに対し、製薬企業にとって魅力的なデータセットを揃える創薬コンサルテーションの提供、必要なデータの取得及びデータ取得に必要なプロトコルや実施研究機関等の情報の提案を行う。これらの支援により、あらゆる創薬ステージにあるプロジェクトに貢献することで、高い付加価値を有する創薬研究を通じた製薬企業への橋渡しが実現される。

本事業により、国立研究開発法人日本医療研究開発機構創薬戦略部（以下「AMED-iD3」という）の指示のもと、産官学オールジャパン体制でアカデミア発創薬研究の推進、効率的な創薬エコシステムの稼働及び革新的医薬品の創出が実現されることを目指す。

2. 研究開発成果

本事業の遂行にあたり、自ユニット内の体制整備並びに AMED-iD3 及び他ユニットとの連携及びその仕組みの確立を図った。前者については、当社の研究の強みを発揮するべく、当社研究体制を有効に機能させつつ、新規に本事業専用のシステムやプロセスを導入及び確立した。後者では、AMED-iD3 やエコシステムユニットである Drug Seeds Alliance Network Japan との連携により、事業運営における問題点の早期把握及び方策決定並びに創薬研究計画立案等の支援の実施につなげた。

研究支援においては、AMED-iD3 より依頼のあった新規薬剤開発を目指す 13 件の研究テーマについて貢献した。当ユニット独自の技術や経験による研究計画の立案、必要なデータセットの取得並びに適切な解決法の提案を含めた創薬コンサルテーションを有効に実践する機会を得、ユニット代表者の統括のもと、各支援テーマにおける研究責任者を中心に確実な遂行に努めた。具体的には、新規作用機序に基づく低分子化合物の合成研究及びその薬効評価が 3 件、非臨床薬効、薬物動態及び忍容性試験による新規薬剤候補化合物の評価が 3 件、化合物スクリーニングについての系構築の提言あるいはその実施を通じた化合物の選定が 3 件、さらに、合成展開やスクリーニング系の可能性についての創薬コンサルテーション業務が 3 件であった。いずれも概ね研究計画に従い順調に研究が進捗し、各支援テーマの研究推進並びに方向性の決定に効果的に貢献することができた。

3. 総合評価

創薬研究に重要なプラットフォームや長年に亘る創薬研究者が創薬専門領域にすべて揃っており、質が高く、スピーディーな創薬支援体制が構築されている。また、実際に施行した 13 課題について、それぞれ異なる創薬フェーズで質の高い創薬支援による結果が出ている。TPP (Target product profile) の作成に対するコンサルタント支援が、創薬初期段階から可能になっていることは強みである。アカデミア創薬のスピードアップに応えられる体制である。以上より、我が国の健康医療の発展に非常に大きな貢献が期待される成果が出ていると評価できる。